



## 和歌山大学附属図書館メールマガジン

第4号

平成18年7月7日

### 図書館からのお知らせ

- ・夏期休業に伴う図書の長期貸出について

学生用図書 : 平成18年7月24日(月)～9月22日(金)

学生用以外の図書 : 平成18年7月7日(金)～9月7日(木)

この期間に借りた図書の返却期日は、平成18年10月10日(火)です。

対象者 : 学部学生、大学院生、専攻科学生

- ・試験期間中(7月10日(月)～27日(木))開館時間の変更について

平日 : 午前9時～午後9時30分

土曜日 : 午前10時～午後5時

### 新入生のための図書館ガイダンス

期 間 : 平成18年4月10日(月)～

集合時間 : 月・水・金 : 午前11時

火・木 : 午後4時30分

参加者 : 次のとおりです。

	参加人数
教育学部	107
経済学部	347
システム工学部	201



ガイダンス風景

## 日経BP記事検索サービスの案内

「日経ビジネス」・「日経パソコン」をはじめ、日経BP社が発行する雑誌30誌のバックナンバー記事を、オンライン上で、テキスト形式（本文のみ）またはPDF形式（記事全体・雑誌イメージそのまま）でダウンロードできるサービスです。読みたい情報をオンラインで、いつでも簡単に検索・閲覧することができます。

図書館のホームページから「大学内サービス」をクリックし、さらに「電子ジャーナル」をクリックして「日経BP記事検索サービス」をご覧ください。（和歌山大学構内に設置しているパソコンで利用できます。）

HPアドレスはこちら <http://www.lib.wakayama-u.ac.jp/>



日経BP記事検索サービス画面

## コーナーの紹介

今回は、雑誌コーナー（2F 閲覧室）を紹介します。学術雑誌のカレントナンバー（新着分）と、バックナンバー（今年発刊された分）を配架しております。閲覧席は70席あります。

### 受入タイトル数

和雑誌：339

誌名の五十音順に配架

洋雑誌：252

誌名のアルファベットに配架

注）電子ジャーナル（和雑誌：33、洋雑誌：1,913）は、ホームページより閲覧できます。



雑誌を閲覧する利用者へのお願い

現在、雑誌の利用調査を行なっております。

閲覧する場合は、近くに設置しているえんぴつで調査票にチェックをお願いします。



調査票

平成 18 年度の展示開催

玄関に入って右側の展示・掲示コーナーで、これまで、次の展示が行なわれました。

・「新入生向け絵画展」平成 18 年 4 月 8 日（土）～4 月 28 日（金）



松井徹助教授のコメント：

部員の皆さんが色々な思いを紙面に託して忙しさに感せず気持ちの安らぎと充足を求めて絵を描いてくれることが嬉しいです。フラジャイルにはまっている元美術部員の松井は皆の健康も祈ってます。

・「BOX 展示会」平成 18 年 5 月 19 日（金）～5 月 26 日（金）



北村元成講師のコメント：

BOX は作品を制作・展示することを目的とした学生のグループです。テーマに合わせて有志が集い、様々な展示会を頻繁に開催していますのでご覧になってみてください。

## 『ミューズ教育思想史の研究』を公刊して



拙著『ミューズ教育思想史の研究』を昨年12月に風間書房より公刊しましたので、この場で語らせていただきます。底本は、2003年3月に東京芸術大学から博士(美術、専門領域:芸術学)の学位を授与された同名の論文です。科研費(研究成果公開助成金、350万円)を受けての公刊でしたが、規定により400部のみでの出版で、しかも全842頁のため、価格は25,200円となりました。しかし、すでに東大、京大、そして和大小等、主要大学の図書館に収蔵されました。和大小では大学院の教科書として使っています。

さて、本の内容が問題です。ミューズ教育思想は、諸芸術を司る古代ギリシアの女神「ミューズ」に由来するドイツ語形容詞「ミューズの musisch」を中心概念とする教育(教養)思想であり、ドイツ古典期(18世紀後半~19世紀初頭)のゲーテと並ぶ詩人シラーの美的教育論に始まり20世紀20年代に明確になったドイツ特有の思想です。しかしこれは日本ではほとんど未知のままでした。そこで約200年にわたるその歴史と思想的核心を詳細に解明したのが今回の拙著『ミューズ教育思想史の研究』です。

美学者でもあるシラー(1759~1805)はゲーテほどには日本で知られていません。しかし、ベートーヴェンの「第九交響曲」の歌詞「歓喜の歌」の作者であると言えば、大方の人が「何だ、そうだったのか」と言うでしょう。師走になると日本全国の各地で第九が演奏され合唱団がシラーの「歓喜の歌」を力強く、ドイツ語で歌っています。この歌詞は(内藤克彦訳を参照して)和訳すると「喜びよ」で始まっていて、「喜び」が主題となっています。何の「喜び」でしょうか。歌詞の一部をもう少し見てみましょう。

「君の魔力は/時流が厳しく分離したものを、再び結び合わせ、/きみのやさしい翼の休むところ、/すべての人が兄弟となる。」ここでの「君」とは「喜び」のことです。すると「喜び」のもとで「すべての人が兄弟となる」ということになります。次に合唱によって「抱き合え、百千万の人々よ!/このくちづけを全世界に!」と歌い上げられます。よって「喜び」とは、人間の同胞性の喜びのことだとも言えます。

シラーはその著『人間の美的教育に関する書簡』において、人間は美しいものを通じてのみ個人の自然な感性を犠牲にしないで人間の代表として自己を表現できる、と言っています。彼自身によれば、「ひとり美しいものだけを我々は固体としてまた類的存在として同時に、すなわち類的存在の代表として享受するのです。」こうして、この言葉と先の「喜び」とを関連づければ、「喜び」とは人類愛の喜びであると言えます。ですからシラーの望んだ美的な人間(後のミューズ的人間)とは、人類愛の「喜び」をもって(それは感情ですからあたかも自然現象のように)人類愛を実践する人間を意味します。

なるほど、こんな人間は理想像であって現実離れしています。しかしシラーは、近代社会とは人間が分断され合い争う「利己主義の体系」であることを鋭く見抜いていました。そこから彼は、美的な人間の育成によって、ついには調和した社会が生まれることを期待したのです。だからシラーの思想には根拠があります。もちろん現世から利己主義が無くなることは決してないでしょうが、しかし反面、利他主義も根強く生き抜いて、社会の分裂、軋轢(あつれき)、不和の進行を防ぐことでしょう。だからミューズ教育とは、人間に対する共感能力、つまり共同性や連帯性のある人間の形成思想なのです。

(教育学部教授 長谷川哲哉)

## 新着図書情報



「稲むらの火」防災アニメーションビデオバリアフリー対応作品 21分

子ども向けのアニメーション（株教配）に仕立てられて、各地の自治体などの防災用ビデオに指定されたり、子ども映画会などで上映されたりしています。

ものがたりは、

安政元年の秋のある日、紀州有田郡広川村は豊年を祝う祭りで賑わっていました。昔は栄えていたこの村も、たび重なる天災のために村を捨てて、出て行く人も多く、この頃ではすっかりさびれてしまいました。陽気な祭りばやしが先程から庄屋の五兵衛の耳にも聞えていました。そこへ三郎太が遊びにやってきました。その時、ズズーンと激しい地震が襲いました。村の広場で踊っていた村人たちもあわてて、家に飛び込みました。しかしやがて地震がおさまると、人々は何もなかったかのように、再び踊りはじめました。五兵衛の家では使用人の茂平次と三郎太が池も井戸も干上がっているのに気付きました。五兵衛にはこれが恐ろしい津波の前兆だとわかりました。村人たちに危険を知らせる暇がないと気付いた五兵衛は、茂平次と三郎太に自分の稲むらに火をつけるよう命じました。裏山の中腹で赤々と燃え上がる稲むら火を見つけた人々は、踊りをやめて、五兵衛の家を目指して駆け登ってきました。やがて駆けつけた若者たちが燃えさかる火を消そうとしたとき五兵衛はこれを押しとどめ、沖を指さして言いました。「見ろ、津波がくるんじゃ」若者たちは今まで見たこともないすさまじい海の姿に驚きました。五兵衛は若者たちに戻って年寄り、子供、そして病人も一人残らず救い出すように命じました。五兵衛の家の前には難を逃れた年寄りや子供たちが集まって来ました。その間にも荒れ狂う津波は家も、田畑も、村のすべてを奪い去りました。無残な村の姿を茫然と見守る村人たち……。

突然、一人が叫びました、「もうこんな村はいやだ、出て行くぞ」この声に村人たちは、「おらもだ」「おらも出ていくだ」と口々に、叫びました。これ迄、何度となく襲った災害に、打ちのめされた村人たちの悲痛な叫びだったのです。この時、五兵衛が皆を制して言いました。「よく聞け、田んぼがなんだ、家がなんだ、皆が力を合わせれば村はきっと元どおりになるんだ」しかし、五兵衛のこの言葉を聞いた村人たちは、「そんなこと言たって、家もなけりや食うものもねえ」「銭だってなくなっちゃっただ」と口々に叫びました。「心配するな、わしが何とかする」と五兵衛・・・「よく言うぜケチ爺が」と、若者の一人がこう言ったとき、「五兵衛さんはケチじゃないぞ、ケチだったら稲むらに火をつけるもんか」と、三郎太が怒ったように言いました。三郎太の言葉を聞いたとき、村人たちは、はじめて財産を犠牲にしてまで、自分たちの命を救ってくれた、五兵衛の本当の気持ちがわかりました。やがて、人々は、五兵衛のいう通り、協力して、村の復興のために立ち上がろうと誓い合ったのでした。村人たちの心を励ますように、稲むらの火は赤々と燃えつづけました。

（株教配から許可を得て、ビデオより転載）

## 専門委員会の活動

本年度より、次の2つの専門委員会を設置し、活動を始めました。

### 学術資料選定専門委員会

目的：図書館枠予算による、資料（学習用図書・雑誌、一般図書・雑誌等）の選定方針の策定

第1回：平成18年4月19日（水）10：00～12：00

### 学術情報利用推進専門委員会

目的：学術情報の電子化の推進と、それを利用した教育・研究の活性化

第1回：平成18年5月10日（水）10：50～12：00



//編集後記//-----

いよいよ、学期試験が始まります。図書館をうまく活用していただき試験がんばってください。図書館では、皆様とのコミュニケーションを図っていきたく思っております。どんな些細なことでも結構ですのでご質問、お問合せ、ご感想等を下記アドレスまでお寄せください。良き交流の場にしていきたく願っておりますので、よろしくお願いいたします。（スタッフ一同）

\*\*\*\*\*

編集・発行：和歌山大学附属図書館

TEL：073-457-7915

FAX：073-457-7919

e-mail：[unyo@center.wakayama-u.ac.jp](mailto:unyo@center.wakayama-u.ac.jp)



\*\*\*\*\*